

平成22年度 調査研究資料
中小建設業の新分野進出に関する調査研究
報告書

平成23年2月

社団法人 中小企業診断協会 栃木県支部

事例企業

企業名	中里建設 株式会社		
代表者氏名	中里 聡	住 所	佐野市栃本町 1 0 5 1
資本金	2, 0 0 0 万円	創業年	大正 9 年
売上規模	3 8, 0 0 0 万円	従業員数	1 7 名
事業内容	土木・建築業等の総合建設業	新規事業の内容	配水池ロボット調査清掃・水道管内特殊洗浄・水理調査・管網解析・オゾン洗浄等
会社沿革	<p>大正 9 年 中里土建として土建業を創業する。</p> <p>昭和 4 4 年 中里建設に商号変更</p> <p>昭和 4 9 年 資本金 3 0 0 万円で、中里建設株式会社へ法人成り</p> <p>平成 4 年 資本金を 1, 0 0 0 万円に増資</p> <p>平成 9 年 資本金を 2, 0 0 0 万円に増資</p> <p>平成 1 9 年 新規事業として、「水理部」創設</p> <p>平成 2 1 年 「水理事業」に係る経営革新の承認を受ける。 同年より、本格的な新規事業を開始して現在に至る。</p>		

1 既存事業の内容、新事業を立ち上げた場合はその経緯

既存事業は、「土木・建築業」を中心に合計 1 1 種類の建設業許可を持つ総合建設業で、公共事業を主体としている。

新規事業を立ち上げたのは、公共事業主体では今後の事業展開が難しいとの危機感からである。ある時に受講した「経営研修」から、“理念経営”の重要性を習得し現業から脱皮する術を掴んだ。“いのちを護り、生命を創る”の経営理念から再度事業を見直し、今後の方向性として「水理事業部」を立ち上げ現在に至っている。

2 新規事業を立ち上げた場合の事業化までの流れ

他府県の青年会議所（JC）メンバーから配水池ロボット清掃を紹介され手伝ったのが切っ掛け。後に自分でやるべく“経営理念”を確立し「水理事業部」を創設した。栃木県の「経営革新の承認」を得た。関連する各種協会にも加入し、理事にもなっている。

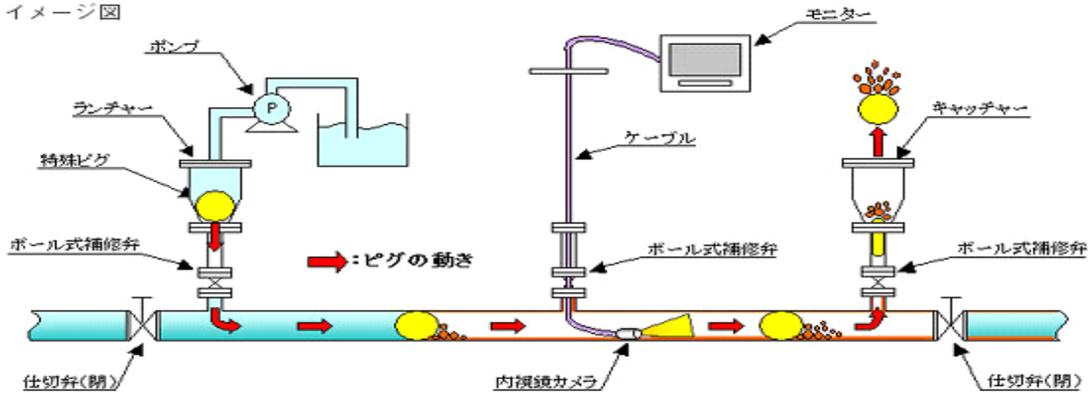
水道事業は公共的な部分が多いので、「水理部」を中心としたDMでの全国各公共団体への周知徹底を図るようにした。その後、経営革新認証後自社のHP上でも施工実績等のPRに努める。

現在では、水道管の老朽化等から全国各地の公共団体からその実績を買われ受注が入ってきている。

SCOPE工法の概要

本工法は、既設の地下式消火栓下にあるボール式補修弁を利用して、洗管対象管路上の二点から不断水内視鏡カメラによる管路内調査、及び超圧縮性特殊PCボールによりpig洗管を行う工法です。

イメージ図



3 異業種参入の要因分析

(1) 経営資源の大きさ

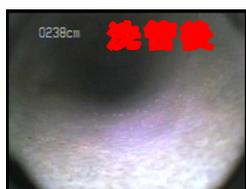
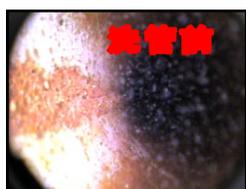
① 従業員規模、資金

会社は、従事員数17名（内役員4名）と多くはない。この内新規事業は、4名（営業を含め）体制で臨んでいる。少人数ではあるが、新規事業が順調に推移しており、将来は土木建築部門の従業員の新規事業への異動も考慮中である。資金面では、多少大きな額（3千万円超～）を必要として自己資金で賄うのが厳しかった。そのため、「経営革新承認」を受けての融資で賄った。

② 設備

専用の機械を必要とし、上記資金で導入した。





③コア技術、人脈のネットワーク

上水道設計に関わってきた人材がいて、その経験を応用し研鑽することで技術を身に付け、更に研究開発を重ねることで新規事業に問題なく参入できた。また、従来からの事業で公共団体後の人的ネットワークが活用できた。

(2) 組織の体制と意識

①社長の新規事業への想い

経営理念を明確化して、危機感から現状打破を考えて不転の覚悟で望んだ。

②下請け構造から脱却している自立性、

独自技術による自社施工のため下請け割合が少なく、特になし。

③後継者の存在

特にナシ。

④地域に対する思い

地域密着志向が強いが、従来の公共事業では地域密着度は少なくなる傾向である。

⑤企業としての金銭感覚

公共事業減少と共に採算性は意識しており、以前にも増して“採算割れ”の仕事は受注しないようにしており、むしろ付加価値を高める商品開発を行っている。

4 経営課題

現在、新規事業の仕事が増大傾向にあり仕事をこなせ切れない傾向にある。この仕事ができる従業員や協力会社が欲しいが、自社の経営理念を十分理解してくれないと任せられないジレンマがある。

5 今後の方向性

従来からの仕事と新規事業の比率を逆転させていくことが重要になる。今後は、売上げ規模追及でなく“利益確保できる”仕事への転換を図る。